



小さな村の大きな取り組み・・・長野県下條村

長野県南部に位置する人口約4200人の下條村。1992年に当選した村長の伊藤喜平氏は、若者が減り、村が衰退していく状況を見かねて、様々な政策に着手しました。その結果全国から注目される村となり、これまでに250近くの自治体が視察に訪れています。私たち(長戸路義郎氏、小沢一美氏、菊池陸男氏、議会事務局職員)も、ようやく予約がとれた10月15日にこの村を訪ねました。

村職員の意識改革 村長がまず着手したのは、「目的意識」「スピード感」「コスト意識」が薄い職員の意識を変えることでした。職員は、隣接した飯田市にあるホームセンターで物品の店頭販売を研修し、民間企業の厳しさを実感しました。そして、やる気を起こし、仕事を効率よくこなすようになったそうです。その結果、正規の職員を51人から35人に削減し、村の人件費も約2割削減することができました。



資材支援事業 村道、農道、水路の整備のうち軽微な土木工事については、村が資材を支給し、住民自らが工事施工にあたるのが、資材支援事業です。もちろん当初は住民の強い反発があり、町長との激しい攻防もあったそうです。しかし、行政頼みの習慣から抜け出すことで財政負担が軽減し、住民は自ら額に汗することで村が良くなることを実感したといえます。事業開始から13年。今も土曜日には村のどこかでこの事業に取り組む住民の姿が見られるそうです。

今年の出生率2.04に 日本の平均出生率が1.29といわれていますが、下條村では今年2.04を記録しました。秘策は、補助金に頼らない、村独自財政による者定住集合住宅の建設です。村は1997年より1棟12戸(2LDK、20坪)の集合住宅を毎年1棟ずつ建て、これまでに12棟が完成しています。入居条件は、若者で子供がいるか、これから結婚する人に限られ、書類と面接をとおして村に定着する意志などを審査して決めています。村が入居者を選べるのは、補助金なしの独自予算で建てたからです。家賃は3万6千円で、民間アパートの半額程度です。この施策が功を奏し、近くの飯田市からも入居者が来るほどの人気ぶり。さらに、保育園での延長保育、学童保育などにも取り組み、4年前から中学生までの医療費を無料化しました。



充実した文化施設 職員の給与や人員削減、さまざまな節減策を断行することで、村の財政は良くなり、村長は村民のために文化施設や保健福祉施設を充実させていきました。まず、1994年に7億5千万円をかけて村立図書館を、2000年には9億3千万円で、診療所や温水プールやデイサービスなどが入っている医療福祉保健総合健康センターを建設しました。さらに2002年には9億6千万円かけて、500席の本格的な文化ホール、文化芸能交流センターを建てています。どの施設も、頻繁に利用されているとのことでした。

村独自の施策がもたらしたもの 大胆な施策を実現することで、村は大きく変わりました。人口は増加し若者の定着が進みました。なかでも大きいのは、住民の意識変化でした。しかし、高校を卒業した若者が村から出て行くとか、農業の後継者がほとんどないという厳しい現実もありました。案内してくれた 串原総務課長は、今後は企業誘致と農業振興に力を入れたいと話していました。

文化施設や福祉施設の充実を可能にした理由のひとつに、この地方の物価や賃金が安いことがあげられます。八丈は離島であっても東京都。都会とほとんど変わらない賃金と離島ゆえの高い輸送費によって、建設費は下條村より3割程度多くかかりそうです。それでも、この村の取り組みは「すごい!」と言っていいと思います。なぜなら、地方自治の原点に立って、行政に頼ることなく住民が自ら行動する力を実感できたからです。

粗飼料(草)の自給に取り組む酪農家

・・・ますみフォルト組合 (伊那市)

東に南アルプス、西に中央アルプスを望み、間に広がる平野を悠々と流れる天竜川。伊那盆地は、かつて稲作と養蚕が盛んでしたが、今は水田に野菜、リンゴや柿、飼料畑が混在しています。酪農も盛んですが、輸入飼料の高騰で厳しい経営を強いられ、飼料の自給に取り組む酪農家が増えてきました。

飼料用トウモロコシの栽培 伊那市における農業生産額は、やはり稲作が主で、畜産、野菜と続きます。畜産のうち7割が酪農です。フォルト組合は酪農家8名で組織されています。訪ねた時は、ちょうど飼料用トウモロコシ(デントコーン)の収穫時期でした。

デントコーンは、ドイツ製の裁断型コーンハーベスターによって瞬く間に2~3cmの大きさにきざまれ荷台に積み上げられていきます。積まれた飼料はタワーサイロや畑の脇のL型バンカー(6ヶ月保存可能、冬にも使用)に貯蔵されます。最近、牛の嗜好性や栄養価が高いという理由で注目されているそうです。収穫時期の作業は大変ですが、組合員総出でそれぞれの圃場の収穫を手伝うので短期間に済ませることができます。

粗飼料自給は100%を実現 乳牛にはふつう、粗飼料(草など)と濃厚飼料(穀類など)の2種類を与えます。乳量と脂肪を多くするために必要なのが濃厚飼料で、牛の体調を整え反芻を活性化し良質の乳を生み出すために必要なのが粗飼料です。フォルト組合では、濃厚飼料は輸入に頼っているものの、粗飼料をすべて自給することで、厳しい酪農の現状を乗り切ろうとしています。日本の酪農の将来は、いかに粗飼料を自給できるかにかかっていると、組合長は言い切りました。八丈島には肉牛肥育の農家もいますが、酪農家はわずか2軒です。町は畜産農家の飼料自給を推進し、そのための工夫、改善策を考えるべきです。それが、島の産業が続いていく「遠くて近い」道だと感じました。





2008年9月議会 一般質問

<http://www7.ocn.ne.jp/~sachiko8/okuyama/>



1. ふるさと納税にどう取り組むか

今年から、任意の地方自治体に寄付することで、住民税の一部を控除できるふるさと納税が導入されましたが、町はこの制度にどう取り組みますか。

総務課長 町は現在ふるさと納税の受け入れを実施していて、実績は現在3件ある（3万円）。郵便局や銀行の振込み、現金書留で対応し、寄付証明書とお礼状を送っている。議員の皆様にも知り合いなどに周知していただきたい。

幸子 この制度を利用して、積極的に勧誘の対策を講じ、特典などを設けて町おこしを進めている自治体もあるが、これについてはどう思いますか。予想される煩雑な業務についてはどう対処するお考えでしょうか。

総務課長 土産品などの特典で誘致しようというのはよろしくないと思うが、春にフリージアや島の特産品を送ろうかと考えている。他地域からのふるさと納税であれば税額は増えるが、八丈から他へいく場合は減るので、なるべく外からお願いしたい。

2. 空き家バンクの設置と防災対策について

空き家の実態調査についてはすでに報告されていますが、台風・地震などの防災上も、情報を集約する場としても、空き家バンクは必要と考えます。

総務課長 貸し出し希望などの調査はしていない。町は民間活力による空き家の貸し借りが望ましいと考えており、空き家バンクの設置は考えていない。

幸子 台風の季節を迎え、町は今後どのように対処しますか。

総務課長 防災上の問題については、所有者が管理し自助努力で解決すべきものとする。台風時などには、広報や防災無線で注意を呼びかけている。

2. ヤギ飼養条例の制定を急げ

今年度から都の補助を得て、八丈富士のノヤギ駆除事業が始まりました。ヤギを駆除しても飼育されているヤギの管理を徹底しなければ同じことが繰り返されます。この事業の重要性を訴え、住民の理解を得るためにも法整備を急ぐ必要があると思います。

産業観光課長 ヤギ協議会はこれまで4回開催し、作業をすすめている。今鉢巻道路の上に拡散防止網を張っている。また、飼養実態調査や首輪配布、耳標などについて検討し、条例制定に向けて対策をすすめている。

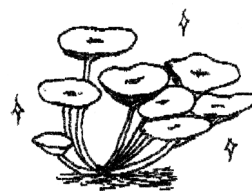
幸子 ぜひ、今年度中の条例化を実現してほしいと考えます。飼養ヤギの個体識別の方法も外れない工夫をしてほしいと思います。

産業観光課長 今年度中の条例化の実現については、実態調査をまず優先したい。個体識別方法も考えながら、可能なかぎり早期実現を目指したい。

光るきのこ、上野でブレイク？

上野の国立科学博物館で、10月11日から来年1月12日までの3ヶ月間、「菌類のふしぎ」という特別展が開かれています。そこに八丈島の光るきのこが展示されているというので、上京した折に立ち寄ってみました。

菌類（きのこ・カビ・酵母）の多様な生態や、食品や医学に利用されている様子が分かりやすく展示されていました。展示コーナーの壁の穴をのぞくと、ヤコウタケの神秘的な青い光が浮かび上がってきます。小さくて、その光も決して派手ではないものの、実物のきのこが光っている姿は感動的でした。八丈島を訪れたことのない人々がこれを見て、あらたな観光客予備軍となってくれればうれしいなあと思いました。



ヤコウタケ

ふれ
いく
たい
む



光るきのこが、なぜ光るのか、どのような役割をしているのかは分かっていませんが、ノーベル化学賞の受賞に貢献した「オワンクラゲ」のように、将来の大きな可能性を秘めているかもしれません。これからも観光資源として大いにPRしたいものです。

議会は一組に処分場建設促進を要望

.....住民は建設凍結を求める要請書提出

一般廃棄物最終処分場建設をめぐって住民から様々な意見が出されていることから、10月24日、全員協議会（執行部が入らない議員だけの）が開かれました。現在の候補地を議会が了承していることを踏まえ、あらためて議会の意向を集約し、東京都島嶼町村一部事務組合（一組）に伝えることが重要であると考えたからです。議員一人ひとりの意見を確認した上で、計画どおり建設にあたるよう要望することになりました。菊池睦男議員と菊池綾子議員以外の、私を含めた12人が署名し、そのうち8人が10月27日に一組へ出向き、議会の意思を伝えてきました。

一方、処分場建設の凍結を求める要請書が、4000人以上の署名を添えて議会、町、一組に提出されました。1名以上の紹介議員を必要とする「請願書」は議案として議会で取り上げられます。紹介議員を必要としない「陳情書」やこれに準じる「要請書」や「嘆願書」などについては、議会運営委員会でその取り扱いについて審議され、資料配付にするか、議案として取り上げるかが決められます。この場合、私は、多くの住民の声と捉え、議会で取り上げて議論したうえで、あらためて議会の意向を明らかにすべきだと考えています。

編集後記

10月末、岩手県北上山地の小さな町、葛巻町の議員が視察のため来島しました。昨年の議員視察で「東北班」が葛巻町を訪ねたのがきっかけで、離島行政の実態に関心をもたれたそうです。昨年、議員定数を16人から10人に削減。いわば少数精鋭の全員の来島でした。10人のうち畜産が1人、酪農が4人で、農業を営む議員が半数を占めています。葛巻町畜産開発公社の高原牧場で生産された牛乳、ヨーグルト、チーズ、牛肉、ワインなどを全国に販売しています。牛乳ビンの回収はデポジット制を取り入れているとか。酪農や産業や町の施策などについて語りあい、意義ある交流ができました。

さちこのニュースレター
第二四号／二〇〇八年十二月
編集・発行 奥山幸子
イラスト 奥山幸子